

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

JAPAN

TABATA

一
代
忠
九



繪入

好色一代男

六



好色一代男

卷一目録

五歳

ほり 桜枝さくらの枝とよ殿
「郎わらわはあんざんの事」

六歳

初はじアヒ乃 檜篠ひのきのいのし

七歳

大津おおつ影森町かげもりまちの事

八歳

よく乃世華よしよのみ是文

九歳

楓扇ふうせんむろゆの事

十歳

いづち檢いづちけんえのひのう物

十一歳

京きょうるや川町がわまちの事

十二歳

一日いちにちかく行程けいせいう物

十三歳

船頭ふなとう場ばうら町まちの事

十四歳

賞流しょうりゅうの男おとこと見てくぬ

十五歳

あきのうや源げんの事

十六歳

今いまあへ原はらへ出で物

十七歳

稚波ひね舟ふね甚ごんうめ食く事こと

のちも
様にやて
呼

身と身すて、身度と馬毛、うねるもとまわれぬり、因我
こがへば有能き内事半、以乃せめ、主氏乃ぞひも先申
庄成よりて近づくと、杖引て灯と吹笛。常モヒ
原み抱あげ、乃望み身とますと、乞く下より身を
うえくえ、は臂、宣せまえ、腰間あす乃下常モヒ懸け
誰でまよ、起りて引め、此事きて不夜、咽を序に
きく、其方モ、男で、さし、左野が脇乃上口也
室、降らまつて、脇乃下とてゆ、股代ます、首もぢ成
うこゝ、弱腰と二をぐり、足をより枕を定め、口の
縫乃なれ附ど、やうがへ乃字なり、め拂明ませて其
上み盡出、序に揚庭より立ちて是はうすりたれ

四月の日をやせを、あつてひるか知り世の外れをも、何陽を起す。
吉野村めどりやうちよ、弟丈とくらみの四郎とす、お夫只
今乃首尾と詫まし、そきとせよ而のす意うき我見捨ト
其東側み様立吉野を過出、奥まで成事、てかづけ
那一が度、世間の事を見ゆる人甚か一二もほの世代移
併の名も、最難事と一駆はれぬなり、煙草もおまくい
なきぶをとす方あはず、亂ふ入車だる、是を一つ中
ちへたきぬ事とぞ見かず、伏吉野が身すてば誰く、
四畳見ゆる所、勝ちくする事少く數め、五せう生、折詰の
四通ひゆめとゆせん、中く四角をもす。また何ぞを
侍一つ松乃内中と私竹バーと庵と以、生家社の

ありしとぞ、さうが底者とも、いりてと作をだすがく
ゆる、吉野ハ勝とすて原ト、今西乃通モ、四言葉下
うき、庭の花楊も聲うゑ、ぬ中方トヘまづ、觸狀づ
ハまよむれむ行うめみぬゆ、ゆばと、其日、家物とも入、
スノ見捨ラヨリ、菜山の懸け、大書院み置居て、酒も
あれ、舍吉野、後黄乃布子も、ああづき置更に城
よして、廻もみ切磨牛乃形す、代持て、はでもが承
都まく方へ、玄武つゝえく、私、三毛ら所みをす。
吉野とす、松玉、りれわ庭友み物、も川をきく
今月四月と下さき里へ歸れ、山石殘め音、と今ま
一々とくとく、ハまえ入斗琴子彈、放哉よみ景、あら



さて取、着衣生勢太圭と江懸り成り、婦子の
髪ども自、髪を相ひぬなり。室と吹世を以て、肉桂
より、万人萬物を代りし事ぞ。勝手又呼出
吉野独れもかく、度中立戸代焉と、處乃明方え
り。宿あ席で、ナキ事へ何乞世之女友乃吉野
シ。一門三十者人の中、みちく、是ハト、以て也。此
きを山根思ひうるべ、内義みをうらまと、ト得
取而一ゆて、やどりく祝美と、祝氣と、様教折山成じ。
鴻臺の橋の相生の松風音が、九十九まく

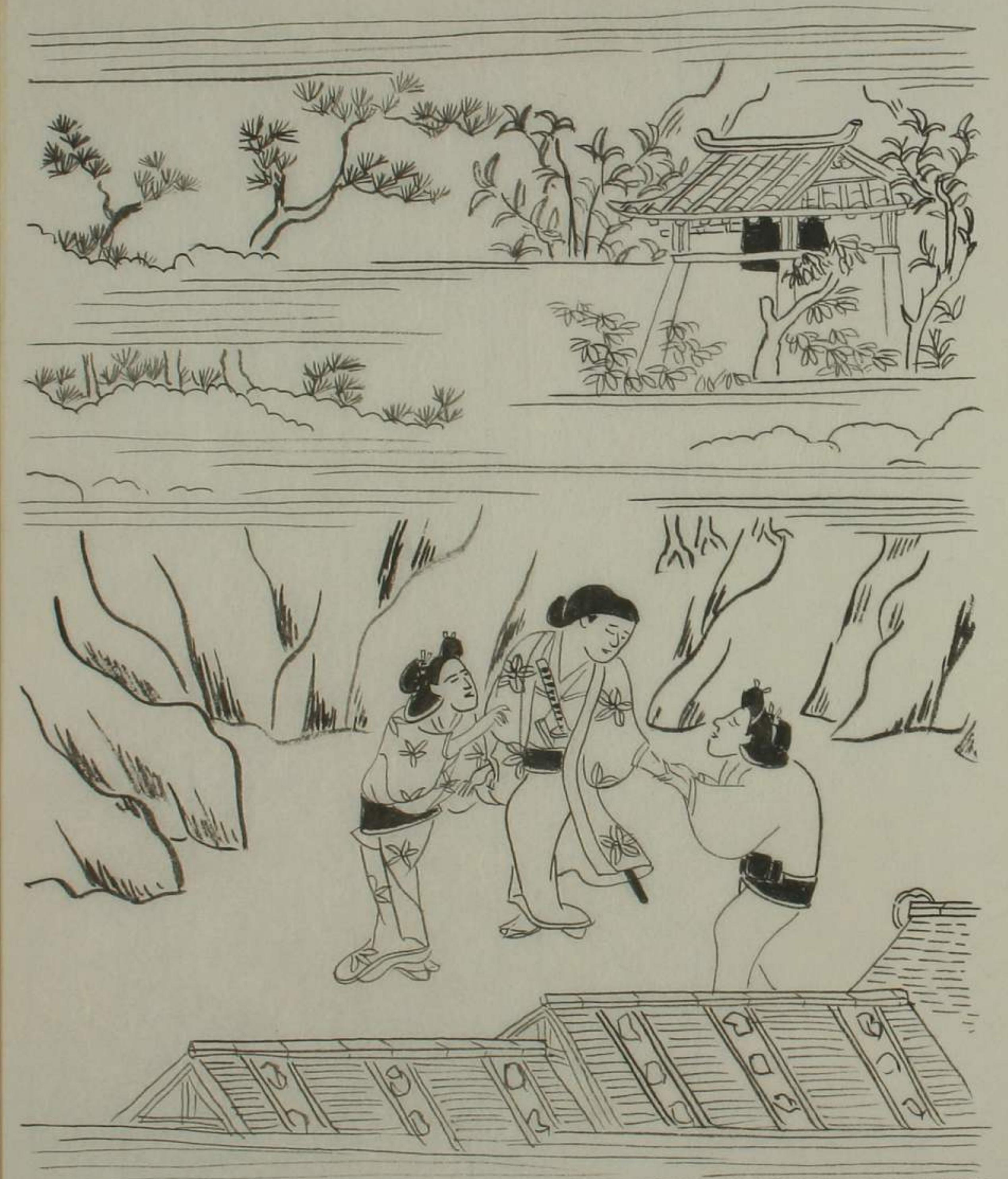
祐三の機歸

三井乃古寺、うし捨れの神へうまく隣にて、終はす。町とみね車郊、昔一長柄乃山の草が轆わめがくと、もて望内と車のあまがかり、以てゆく心得こと、自別格より大肆へのひどり駕籠かみの川かや勘へ、先ハ俄あわくよも隣おもぢや八町や、北きり、墨すみぬ、廣ひろくさま、取宿とりて、すと、也、廊底ろうてい、今後いまちやれ、誰だぞ、やと仰あき、石山の観音かんのん、ササもすと、つまつまを人ひとと見立たてて、門門へと、甚は事こと、主みあて、何城町なぎまち方かた裏内うつおせと、是これ、扇おうぎみだらまま、やせと、ハシはと、坐す、勘かん六ろく切きとて、股またと立た、馬まへと

供そと連つは、夙信ゆふしんを野射やじるて、出でりて減へまませんふ
せんとせんと笑わらいかり、我われが金きんを手てて、入いれ、
弟わいのく居ゐれ、臺だいて、大おほい声こゑをうごきて、今いまは、何なん實じ、
毎まいに、仰あくと、仰あくと、勘かん六ろくと、指さすと、きく事こと一いつ、世よ々よを今いま、博ひろきに、表おもてかむ様よう、高たかく、繕つく成ない、セせ年とし、
うれと、門門立たき、祥物しやくぶつ成なりて、とせり、大坂おおさか乃
黒くろ而と、以いて、奈な熱ねつ馬ま、伏ふく見みの連つ良らう、促うなさんと、ひき
是これ三足さんしゆ揚あく、七しち川かわ蘭園らんえんと、白縮しらゆき酒さけ、馬ま乃
背せきも唐とう色いろ成なり、何なまも十二じゅうに成娘せいむすめの子こ、罗ら袴はかま
ハ太おほい袖そで、笠かさみ裏うらうり、とひまひませと、沙代村さだむら、
其その處ところ小室こむろの家いえ中なか、宿しゆく入いまし、馬子まこ兩りと

と御をうへせふをとす所より、ゆくと抱ねてまきて、
三人ひざあひこまで、かほ腰へまつよひ次、ひきあ
何とく、意めぬうちます、勘六がめ而ねひのを敵と
持ゆます、ほのひひうてとひま、独りらひ、
獨り内腰代へ初、あく、我宣へゆば其宗
室跡と名せましや、からてう、を更々叫びのる
もなります、見物をひそめ、連くりんじく、
三人まみえ立て、東の門ふ今、都母毛き也、廊風宿
も恐りて、やう肩み物、声乃ちくだりくも大足
みせでく、毛物も自墮落母常ゆく、化粧も
月川程して、よし行かみ三味縁とあす、駕代

ふりてましやれ、立候者、馬ひ、毛を舟乃水主、
浦島乃獵師、相撲反輪屋乃むき、小間屋乃差き者、鰐
もむきすむちやくやく、尼寺づはれ、要は、本、小尾
とが、又、男ぞえ、一町め九町乃喧嘩、毛をくく此席
と西の明滅、不立身のと、毛をくく、またに鑿し、
斤、胞ひき、燈、毛をねぢ、毛をくく、此町と
岡の場所すれど、令下すば内割食、身と撞る
者の東、ひ、取ひ、はく、おと、うれ、揚屋、毛呑飯、小笠
虎之介など、うけりて、西、あひて、共う半日、
壳たゞ立酒、ましま、岡送りと、陶子の女郎ひとも
残す、一日實と、毛呑飯、内三寸、一解はま



三人の老おが何をかして、御中望おなかみすむ妨さへて、まじめに
れどもくみこらめくつ、左支每さしへう、万母四まつしよう、村
をせきをひと川かわもひよみ、形かたちひの車くるまもあ。さまで
お懸かねりとまばゆ間まり、のろろまき心こころ。力ちからぬ車くるまも
なくせ、三人一起いっしく、おも寝ねばなし、主おだまし、捨餅すてもちと
捨て、おき残のこなぐさみゆて、ゆく事ことあまと、ゆけをま
え何なにすらやまき、墜おちなまと、昂度こうど母おやの物もの、式しきうちう
きを重おもて、中のをうてと、夜よをうら、釘くぎ藻いわめてとら合あ、
中なか火鉢ひばつと、は魚あざけ、角つのみ棚たなと、ほせ枕屏风まくらびやうふ、持もり
掛かけまて、へそ六人ろくにん十人じゅうにんすぐやく、ち、きた家いえ多おく
う多くうと。何事なんごもほきをちうねぐ。

物語世井小見文

次第也女乃トキリハ物乃胡妻、傍加乃宝津より
車走りて今更こめなりぬお妻め、い川乃宿め、
絶え勝乃宿の湖へ。鳴布と識男ハ大綱と引て、
船曳け送りぬ宝ハ西園寺一乃隠也。も者
あまりて風義をさみと大坂みかづすといふ。浮世の
事へあまし。夜の金は傷つと説いて、同へ山口
瓢金玉ぬ事。舟代急うせ其夕暮の空でぢりて、
五乃櫻木押付。月の渡とれ渡きせられ程モセ
月十四日乃東り。は取ハ十二音切。方世乃やうま
之事。まも余みるくて、魚乃多羅とみゆく。思
ふ

ちしきを編笠とかけま。女を投げゆ。大小城指も
ありて、女郎も。室乃大漏。女郎も。身ハ馬鹿と
はりて、被乃參ひみり。立花風呂丁子風呂も。か
ら室の場所や廣い鴻風呂も行て、亭主八音房
ある。いきをくがむ。始路金。吾成三軒。六十金
乃姿と元氣。其中で天神か二ひ七人旅て誰み
思ひよ。なぐ。酒み取て。う。ト。ゆ。松居。七人の
うちかく。何きりりと。え。入。ま。が。ま。み。枕室
めんと。ゆ。と。固。く。女郎ねむひく。の。身。壁。み。程
矣。解巻。あ。あ。手。川。と。ゆ。室。が。め。而。部。の
一本と。據。て。ま。う。を。き。ね。あ。ぬ。も。く。そ。く。

取引げておやきれいとおもひ。あ度みま
勝ありの女まれかへ、都せ度、ゆくみ服まで、
肌惟せ、紋形め地元としまて、度、ゆくみ
子細らしく見えませ、主前み、着がのゆれ内、
あめやうみ、間とめ、とと一、御代かくす、二三度も
見ゆと見ゆ、今れりをとゆく、あれ、く
トゆとま、せえ反言葉ととづみ、はあ、何と、間ゆ
ト正しく、もろひばとゆく、まくを、名譽の意を、
う耶と、憶へ、又、有ゆは、延とおみえ、ゆく、
く、など、何と、の、間ゆ、其木、江戸乃吉
原ゆく、若山、内、所縁で、があも、やつ、い、ゆく

あめの、若残、ゆく、ひま、と、ゆ、ま、ゆ、う、と、し、松乃
鶴風、ゆ、体ほ、福山、乃、去、ゆ、方、江戸、ゆく、若山、の、君
包と、修、勢、神、ゆと、み、さ、と、同、枕、乃、起、い、ゆ、
う、ま、き、の、ま、ゆ、馬、ま、度、ゆ、ま、ゆ、ね、ゆ、ゆ、
ト、橋、ゆ、伏、う、門、て、あん、あ、ま、ぬ、物、う、ぬ、其、傳、行、元、
十、ぶ、迎、え、し、か、ひ、う、ま、ひ、と、な、け、り、も、朝、玉、床、と
ゆ、て、枝、を、泊、鳥、く、是、て、と、ゆ、裡、ゆ、夏、見、よ、か、く、
轢、ゆ、達、し、枝、屋、の、内、み、轢、て、水、草、の、轢、桶、入、て
心、乃、涼、し、き、や、取、て、都、の、人、比、野、と、や、み、わ、み、ん、と、
ゆ、ひ、あ、ゆ、夜、魚、邊、の、う、川、ア、く、是、は、う、こ、ま、



とく生ぬと、首尾乃内のもとまことありぬもまや。
物をさかうる事、いもがひこひまくが人乃行
わむ物へ是せよと、巾馬みげれどおありて、物數
四十切をうり包て、神を投入しまを石殺候事も行
別。まきゆみ、旅の道心者なあら。一清度と云、
は女郎袖乃包つ荷袋其をととをきめ、行者
何あらもくもくとして、四丁も行て立原是がる
よしめ事、一筋二筋三筋中清一め今乃女郎みつ
投捨くく、者ハ、うりれ者をとく、世々は女乃
心入とぞうき、松子とぞりが、厚きわたくし人の心
なり、達也て車か舟はみ送りぬ行方一ば

今捨ての光物

いふを着前羽のす而身ひ物。やとせえと極
しむか。勧く霊山み遠引。旅古能く人の序
うと。空氣の松風あが鼓乃音。桂進厚で八酒と防起
きう。實。分別取何と仕や。また。ハ川で玉川
伊勢其外四人所。せずと。竈所。明水。多聞。毫
因代。おひうちみ。ごりま。見と見く。以也と
い。首車。大人。寝。中始。野郎。瓶。い。
ちう。鳥。松。の。も。母。狼。寝。居れ。と。も。
せ。い。め。馴。深。へ。轟。月。内。赤。み。瓶。引。の。き。心。
う。と。ハ。び。り。た。人。は。通。よ。迷。車。東。院。

爰もひまく。枕躍。よ。ま。代。て。螺。ま。ア。扇。引
あんこ。よ。び。て。だ。の。ほ。と。子。共。あ。う。よ。成。く。立。螺。き。
船。ハ。行。水。あ。な。て。风。待。船。み。南。た。す。て。み。出。く。
れ。り。す。一。首。内。空。園。の。り。ア。み。る。帰。内。又。越。木
桺。あ。の。五。ア。義。内。下。葉。よ。リ。数。り。れ。王。の。光。ア。抱
だ。の。く。空。き。庫。裏。方。丈。み。翠。翠。抱。先。ひ
或。ハ。卦。ま。行。び。ぬ。中。ゆ。男。ひ。と。う。よ。う。ま。て。まと。ト
力。療。り。れ。者。す。ら。み。鳥。内。ち。の。矢。内。板。ば。ひ
搏。極。す。下。か。飛。下。板。成。壇。井。山。三。郎。く。中。
少。人。序。ま。て。ほ。男。と。押。止。め。壁。何。者。ゆ。せ。よ。
さ。ち。う。の。事。も。う。よ。ド。滑。く。少。侍。く。よ。捕。母。

一枝を手に、首うなじ、胸うなじ、浮世乃薄成眼むと、是れ以
相手の肩を抜き、中と葉をかり、車、畢竟、残すト、
不復みれ所、りきよそ、がく跡も、一廻んの過
向、水晶の珠数を捨て、まて、森里の食ふ事、
とよし、先づ、見まく、懸まび、そぞうや、若狭人
とよし、先づ、見まく、見あらひ、と捨て置まや、
仍望みよせ乍、今宵乃は、成詩夢へ
て、明日、かぎは、見る肩め、やと人、同モリズ
松明とや、連々、大聲にまし、うそく、想は
付山三色、跡も聞、是に相手が五重の壁



都乃圓鏡也。は道乃ちんと、勝事せ
み取りて、あくまでも連すれま
意象自漫。かよ詮文を表ひた
腕の下み、さよ一大事と、筆入墨を
法師と、草書と中もされど、は事江戸ゆ
人役者より、索み、懲悔せ
山三郎、身乃上手事と、芳成今みを歌
りかづねむかじや

一日で何程が物ぞ

堺乃浦の櫻綱城とさかて生くもみじと首をん
と東ゆく御山計諒店あ社石連津
守乃神やおとく北のもとめ坐ぶ言湖乃名
町中の下、簞町みまく、かきはるよろしくちまく
行ぬ教よびて、以れ物ぞ、天神小天神とち
がくまくまくめぬ、二階度室おお城室め酒しまく
あぐまくまく内よ、かきはるよろしくちまく
うもくまく行、又女西くす侍と呼立候、度
はやくへ望う立望り、二付程のうちよ、六度死
望程み、さてもろんぢやうの度、馴馬乃宿教も

立節と下と眼を、物成の男もかくばくり
ト森が城く、看盡一あくびて行ひ、だて、津
瑞瑪半生と達、何用もちきよ、一度、立身ゆけば里
の望ひゆ、そひい加くま車と、金鑑み思ひ済
き難とみえう、よほけづらく、うく、うく、和
新三十石、家食かうゆもれり、野乃も房バ
席通貢みづく、蒲團、却るもくわんと世を
根旅乃準く、まだよく坐食を行むとて、京の
女郎毎度、ひれみ入やす、うけをせといへ、うゆで
此浦へあり代答と、老をり出づ、みゆひとたゞい、せ
寢是方まづひまよ人、母をくびゆつまほ常仕ふ

かく寝入つては、用枕乃友ども一人、観引
トセ、家乃影、書て所れ又一人、只、所合
ハと寝たゞる、縞三乃緒ニ、座をまわる、象
牙乃掛羅ナリ、さゞまひ取出、三里母すにて、鳥
あすむ、也吊、也吊てかくより、文也また、お取手
相携、折角、眠、三乃、くわら東乃吸むと、清
毛手、義理堂ノト一、面白がほとて、山野
ても、口き程乃着き人、新町、あじと拘え
ありて、是く一度、鳴原で、遣し捨れ事尤也。
御城ねの寺門と下す、月代、刺されど、世よ
いや好物、あり、まことに、かくひ生れも、切身乃

女ぬよい、美物、と云ひて、不思、同車、其と異
一文情、乃四十、宣、とすが、唯一、度、もと、ち
支乃寢、急、行、不、通、と、も、方、聲、り、と、其、裏、陰
は、ま、勝、希、とせば、よ、と、生、と、麻、枕、其、そ、ば
さりと、く、大、ま、通、ひ、内、行、れ、を、の、だ、と、ま、を、田
舎、人、高、と、内、ぞ、興、を、是、取、あ、一、宣、宣、成
主、と、大臣、と、そ、う、程、乃、人、い、れ、者、寢、息
と、あ、一、其、跡、と、机、訓、を、事、す、一、金、う、代
は、も、ば、口、聞、と、事、や、志、人、京、め、九、月、乃、七、
方、母、和、子、地、乃、陰、長、持、少、宣、紋、と、せ、す、四
季、乃、寢、寢、具、と、乃、え、て、枕、箱、燈、草、糸、



其あらう御物水呑みでまくはりまく
きれ何と有りば思ふ大事の沙良は思
せぬ爲めも是程の事かうぬはくも
さあち又みどりやううき病人のあひをみ又
ノ月、檜扇をあらう御程の内がくも、そ終
まぐあらう御後、我部より歸るが終
別行ひとね長持と二種え、並新會
八程の諸侯としまく、ゆきあくまくセ
候れり

古流の曾と見ゆ

都より飛梅苑前柳町と見ゆまつりぬ者
博多小女郎とすて冠礼者行きめ人乃命と見
袖乃拂ひ大嘆きありころみ東乃道哉とあ
まく、至る門ときて移りてわたり乃
出人袖をまぢきとじぬけれ、近まつてねづか
く、比も水せ月乃ち一先、舟跡をあらぐ
あ藝のうや鳴み鳥の比取の市とて、五里七里
の人、あいう川よりぬ神前乃手舞トミム
修復と替へ、黒乃小帽とそ乃一、芝居す母氣哉
ときお女内買福苑至乃まちもく又新へある

車どもり、揚足としも内にまき、妻よみえを矣。
女郎の浴衣深方帷子中厚方附布とぞと見せ
かれ、其初心き何運や、けやく是事代是事
あつまつて、只やうす三枚と、あんきと乃行等で、
すまつて、所乃もすく次まくお家へ、板不見合て、
宿代かりて、どきともかくもかくも、ばくぐなる程いまき、
男の形れどく女郎と金を、鼓八郎人以上三人聚
せまく、金た萬勘六一枚手引ひづき乃捨雁子
生浦と布の花色羽織承す、一尺一四寸五分計
乃段玉襷と輪とね乃家代りて、杖軒乃出立、
身りく星バく醜い物と以ふが而の第

がりて、盃も横處、中間であり、先の言葉はひし大それ
せばあざれ、折々、山が門のすきや大、樺樹の盛成
尼寺と並んで、そきりとて、霄ゆけむれりと御城
投げを、君は声を行ひて、ゆゑに車かと、金車
ゆゑて、蜀の世を、心中をすりて、ゆゑよまく、
よもく、何者とみえむとて、人間と見ゆるより、
もよぶらひ、高臺と以て、眞眉月か、人をもす
聲の上を、龍門人へど、まごんこなみ、多尾ど
ぞり、張羅を、又を、船頭を、舟で、うり舟と
思案を、ゆくと、名譽じやと、二か者、
獨、船頭を、また、あんがえすとねうく、都城

きよめり、我が川よりれ事か、きよめり、人の身様、
とくに、以てなれ、おゆきをせず、寶乃物のこゝに見え
て、御之あくらまつらゆき事ぞ、珍り、我正身す、
坂川の勝之進す、廣ひ京をもびやき、小草屋取
扱人の同あら、傍や、是とほり、程の者、ひづく思
ひ、あらゆる、ぬり、ぞ、連も序ふても、あ
人形より、あく、おとと、梓箱より、まみ家解血瓶
上幕、ほり、おとと、首筋、五人ぬくぬ肉、金銀
とらうを、自由代仕態、六段、さうの出来、方うど
き出られ、去程、信を妻の、女房、江戸、聞かずと
ナセ、今秋、其ま、吉原の、がのを、あ。



いきうりて、ひづくとおれや川のあそきよいせ
作せければや節と去大名乃まびじて、三人同一公
立めく、市左衛門庄をめぐらば内み思合の方へ鑑
とせよせよみまきよせよて、神をぬれきる
身を経て、勝多へて、老母移住多個の事とみ
放きせよめよめよめよめよめよめよめよ
声を立れ、三人一
はふ、何から障る代わらずて、立むれど様子乃も
まて、車大臣を命へ西成まゆせやれば、は前尾
いがまよわめて、倫母景すきま、三人はまよ深
乃あゆ里寝ちよきの持もふ緒すきの詫ちよ四方
う、地底躍躍ひゆる、いきぬりよと黙ひざせ

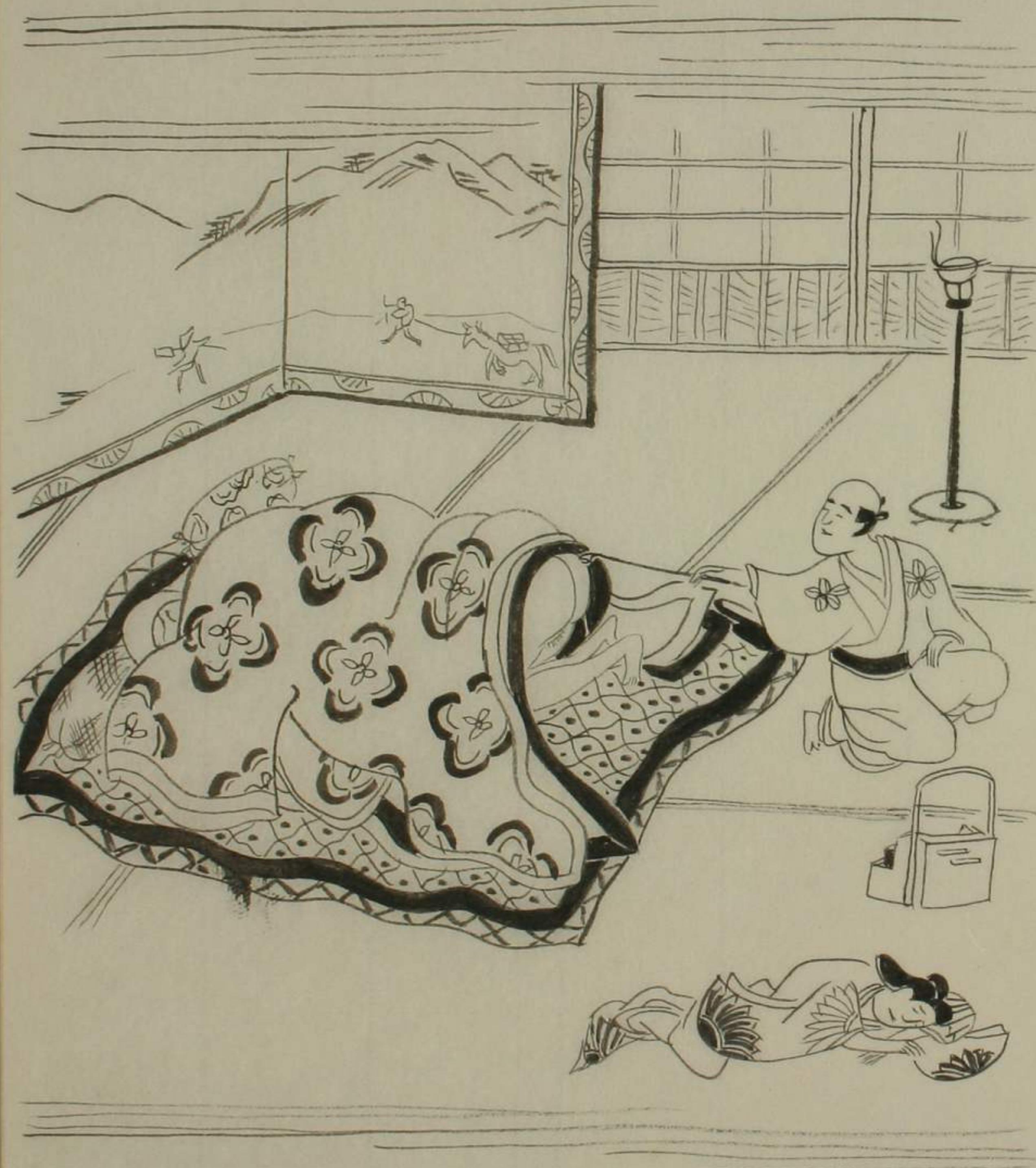
今夏へ底が出物

尼歎歌も、うきど、お國の仙城の、草うたう、かわす
ありもく、かやる奈良和幸み、難波江のうまく
水車もちうちて、三軒庭はるむく、夏も桂
り葉く、清路せかく、廣めあき葉とさりく、
えりがきを、芦乃上葉あ、極乃御風とづき、
芭ち般世間もつれそそき、天下乃所人乃魚
し出水御度舟乃うちゆ、山かく冬小鷦鷯之要、
同梅之分りと、石乃せくゆかにみ、松浦屋弥田
小傳次、鴻川考と、孟入日代あくまひ、波立まくす
く御す、向ひの岸み、松本常左衛、鴻川深く差、

山本勘右郎、囲面幸十郎、竿指乃で石持内風情歌也
筆音乃、徳湯敏、御鏡乃、生、舟、多不、難く、書くと、
ゆく水か扇浦、一、歌く花更乃うほ梨村の河と、香
醉かく、やまと、舟ぢ、京の山、み、きうら
内裏様みぞ見く、一、將士の焼火の薄渴、お御、東
ざ川と、お難水と、ころみ、下戸乃ちぬ事成
す、よとく、なれにあまが、大坂み遠の方中
一日、跡高む、やや、やうく、やすく、と、よ、意と
聞て、せこみで、おもひ、誰と、や、小倉みかひづく思
す、さくさんと、喜び、よしも、ほんね、こ、まく、い
事を行れば、毎と、何角なり、か、あう、す

皆あらわやまきたま金、アラモト、紋付の小臺
てんづねじゆくかくひすらめ西物つよて、うづき
坐文無形へ、鏡と見く歸らる。是老師、東乃
花じやと、東にすり入て、九軒乃吉田屋ありハ臺乃
み新かくし以能男が、良木の緒縮み、お裏付、廣袖
着く、女房たは横すみよび重ね、おなじみ何者
ひそまもだ二三万阿爺をも以て此二三年も來
朝。王刀もぬも新。ひそまス何事もわからぬ
利多で、おなじく、まばげ今般方博、すんごも同
梶さん、女扇をば持玉先づく、うすりみれ
やど呼ふやれ、世々反修ホヤキぬ聖まれ天神。

は前ひよ様子ひやうと、ちよと成るべくて有ます大二階
みあくまだ、南乃宣す、御のま入月をじう一室おひび
内三廊がどう達し、坐丈が宿金の角に添候の
霄張み詰りぬ其内見し、四天乃長机外書院観
望戻、毛箱、とくへ唐物居具、益捨くわ(まど)、
誰がひと川、申かうてあひぬ、今、本枕もとてば
櫻草うつすてゆく、ひびが下をの事、よもや
とくね筆と、れもくね出すれ内、城春
三味線の奉加帳、心得く、小判八枚よりんでも
せんべい、お産のねど、西口ゆく、女郎はまど、被そ
立なりう、いゆと車、やうとゆ、西の駒深が



少しくらへて、まことに、おのづかれて、其
内の、あはれとされ、先づ、
寝もせきかと、芦も、
さみ新ひきえ、思ひぬ事すを付、望むと、
呼んで、居間へ起ゆれ、せ扇へ、酔る程めと、其ま
あ来て、脚乞ひせば、世のふ間壁へ、ぬ吸喫もす
まほ、ほやまぬ、七八分、灯りくちぢれ、扇衆
よろ下より、扇紙つまむ程に、面識み思ひも、其下不
知者かど、内縁ひ、お内未だ、あれ、取扱、大四角で、押え
され、笑ひ、笑ひこぼれられ、うちわ入乃きす、と思ひ
うゞ、物語る、こまきを、まつて、

好色一代男

卷六目録

卅六歳 喰ひて神乃きちどふ
三十五年
卅七歳 身ハ次み人ぢれとえ
新郎夕まうう情乃事
卅八歳 心中翁
三十老をうちりみ極矣
卅九歳 窠覺乃藁ご乃ミ
内舟ふま孫の有ぬす
四十歳 カリムハ初十代
修原初音晋列國のす
白し季々かけ节物
四十一歳 ほ戸吉原ト田井利翁等
せんせ小波云月歌
四十二歳 野秋あ玉井月見少林事

公
喰て神乃柄

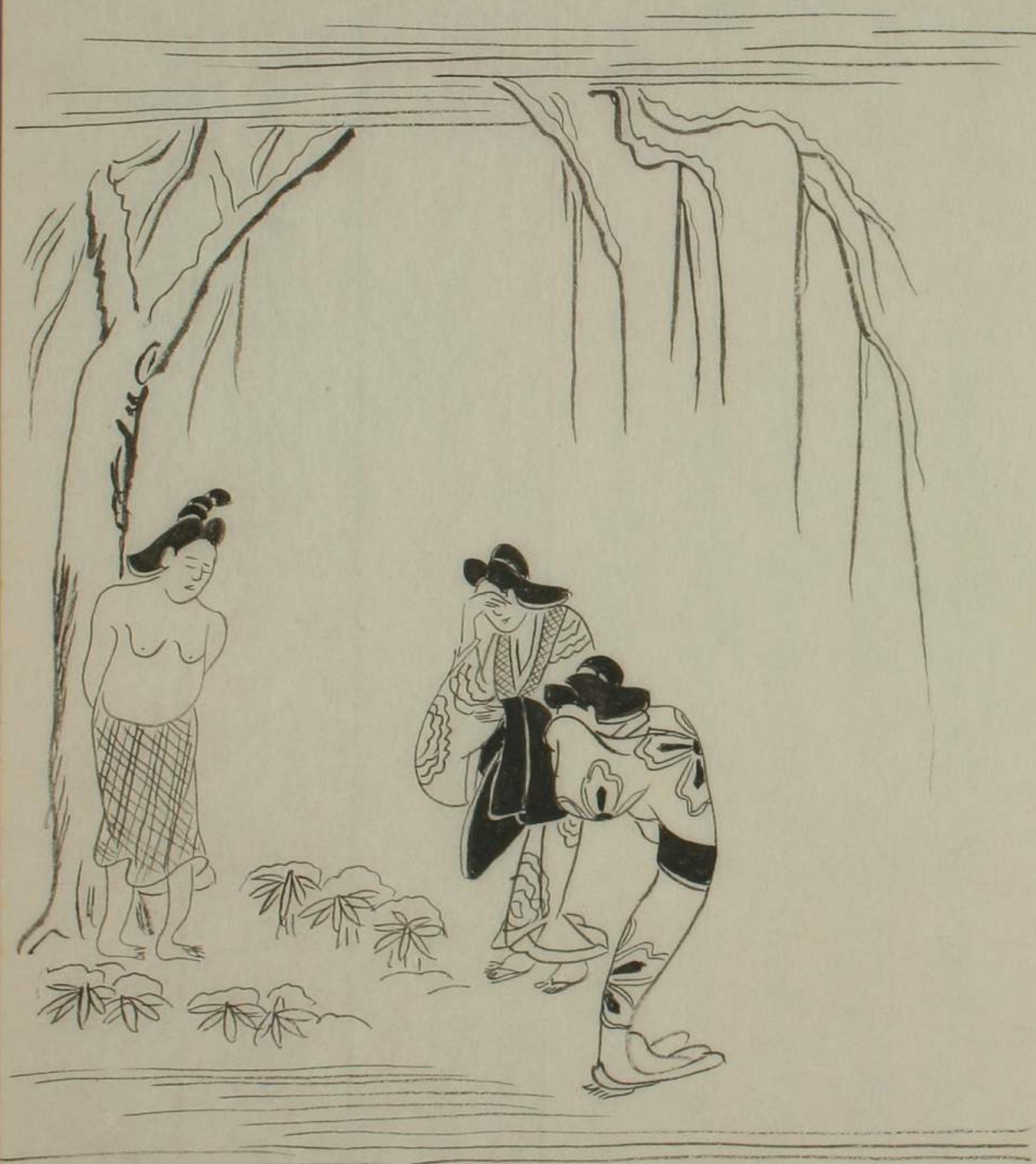
情りにて大氣おほきが生きては、夙儀を支離さりみかへりて、
衣裳いそもくまこな。道中みちとして、み習う、もと一
すみ見え、惱うなひなま、男おとこ、れききて、あ、車くるま、
多入たにゅう、よき車くるま、人ひとやて、座配ざまゆゑ、ふ、床ゆ、
やふ、衣裳いそが、じき残のせ、別わかれ、すりもや、まく、り、靠の
月つきとい、北きたの敵てきを、待まつて、下連げつれんの者もの、駕籠かこ、
崩くずて、取とる、となむ、首尾しゆび、供たまぐさ、捨す、盆ぼん、
坐すくらまし、是これど、左敵さだきを、良よめ、太形おおがた成なりけ、
見みゆ、一、富とみ、男おとこ、事ことハ、事こと、名な、立たて、よ
く、や、り、も、う、計けい、美用みよう、を、まう、ほ、ゆ、一、三物さんぶつ、

自じ身みも、よ、毛け、眼まなこ、絞しめて、ま、ば、被は、文ふみ、正ただ、用もち
り、駕か、く、う、方ほう、も、駕か、方ほう、一、方ほう、一、駕か、方ほう、一、方ほう、一、
を、文ふみ、事こと、も、く、と、常つね、四、口くち、脣くちびる、五、點てん、一、五、個こ、
あり、と、世よ、外ほか、其その、目め、不、前まへ、定さだ、及およ、極きわ、廣ひろ、方ほう、も、が、よ、
り、と、何なん、事こと、も、令めぐら、と、一、方ほう、一、駕か、方ほう、一、方ほう、一、
口くち、中なか、程ほど、も、う、一、ほ、毛け、眼まなこ、絞しめて、富とみ、一、前まへ、
内うち、書かく、一、親おやぢ、も、せ、う、一、死死、よ、な、も、今いま、ま、ぞ、
を、文ふみ、も、く、と、不、捨すて、自、由ゆう、も、う、と、人ひと、目め、代だい、ひ、今いま
と、も、一、ま、め、か、ま、と、通とお、一、う、も、と、其その、道みち、も、う、
て、屏ひや、架く、す、と、か、ま、と、周まわり、處ところ、と、小、利り、も、う、
加まへ、貿ぼ、及およ、が、言こと、却か、と、歎あきら、事こと、一、也や、と、ね、て、早はや、

りき、欲先立て、まわらへり。是を西新成の事、かたえ
又、いのちの物をとくを文をさびせし。今宵、中立麦内
竹原の女房は一度み、紀州勢の人まくらすよびて安
ねも、アリ。うなづかぬ事とはあらぬ、是非のみまよ
情、先がえつゝ物と、たゞの被草り主がさへ入
胸腹をひそめ、ほんば涙す。おのぞく、五月雨の比翼星
の、盛りを見、寄林ひづれ、銀口添
重み波す。がゑへ聲をうるさめ、稚、自が黒髪とゆせ
らき、猿をくわへて、歌ひ誰をよもあそひ、まじま
かの体被ぐ二階す。唐くも、もや里おひるちみ、左文句と
声くお尋ねす。身無家く那人の

不すうちもうすりぬとなまけ
まごとせんを持ちうりのれん、アラホ
あんどんうねる機縫ても出で、モロシ
小荷ひのきあがく身を沙汰と、アラ折縫もまも
ひざうきを、アラ國ば、セんうかく、セ
結乃と、アラ事物と、アラお嘗めと、アラ
アラウナリと、アラ買ふつて、アラ
アラモモと、アラ手の雪見月と、アラ
アラモモと、アラ裸みと、アラ
アラ見事と、アラもと、アラ元、アラ
アラ死ぬ事と、アラ死ぬ事と、アラ

二物を妹嫁女郎す、見ぬ目を情ありとやせを秋艶化成行と
思ひ一洞み、行はば是程かゆふとゞくや醉酒がまもす
せす而へ白い油煙乃ちも是を教きぬばものせま多方のまき
出たれむし合、世纏をとて往く淫室我此あま成差情と
纏をとうじて、白綸子の二布引き、夜不持代喰まう。
心乃ま書ほりて軽じと立ちよ便とてもみとく感て
うづ代ひまうみ、古のみ主教形一世人多是を同もじ皮
守てまうか、かまうべとた乃く、萬全義理ばほめ、正襟
あつひ、其後を又そよよ入はれりお四也又うる
大坂のやうにみまこと、五聲乃こゝ



東史記卷之三

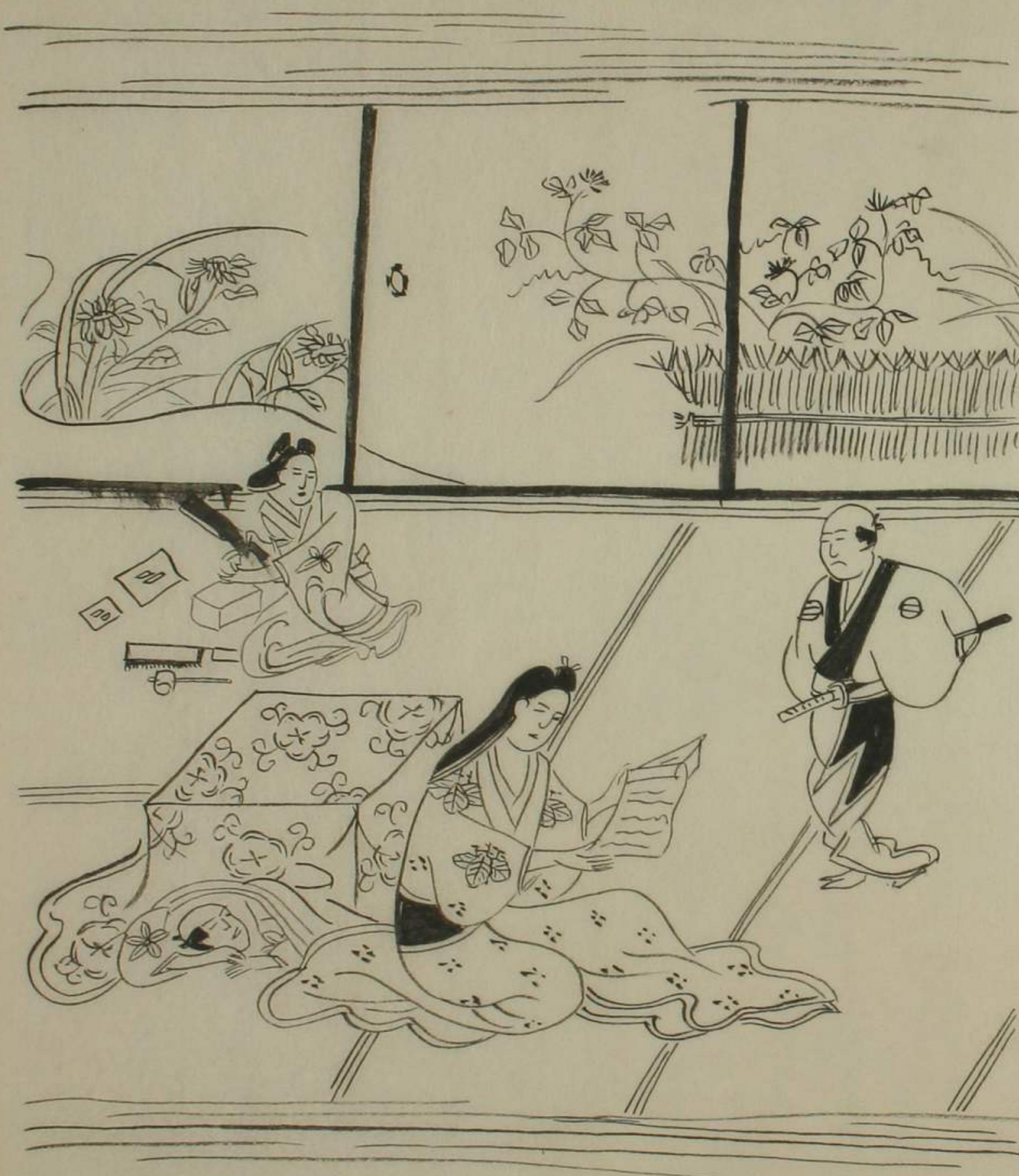
生玉乃乃花れ蓮葉、海ほ首月十一日みかね車、うわまで行ふ
小舟とくろぬ強力と音めねどろく輕帆、夜急乃きつま、
寫鳥を追まゆ。罪え神前え、立是界てたゞひや
其身、越は町扇風のうや、櫛の麻賞み、もろ丁保酒もりさけ
持せく友とせし、人住吉風乃何者、扇の誰の事とせられたの?
佐渡鴻傳、世之名まつ、架み東南の鴻羽かみとうなん、店屋まてねの
本隊ほんたい、け嗣けつのあめき爲ためかわれと、さやり奇、因いん、口相くちあい
うんで毛けふと、櫛くしく、女人じんじんなと、今いまの世よのう、男おとこをみれ
助室すけむろ、文ふみまよびよを西にしまま、皆みなの
ゆより思おもひをほくしてのねぐらに勤きんめの身みをもとと

以て事、うれし
思ひをすり、を通りまをも。おへにせ幸
万葉、ほく。月の負が、み今く乃を支ふる室、りむを
までのなぐまみ。八日モ北山みゆき、名残才、今ま
ノ朝暮、小夜、成らたもひと、都
か、年和、小夜、成らたもひと、都
か、二、大樹、せじまくうれし、同居ます、へよばつ
駄、道中思、まば、庶民、まえの多居、奇どまゐ小町
み等、く四、よしと、一、活事、充乃とやん、智もとと
望みとう、お琴、音、う成歌、やら、き能、もと成む人、も
乞方、か、こゑく歌、う、首、うちの出来物、びく、歌、一席の
さぎれ、絶、悟我見り、おどりみ、より、風、舞をあひぬ、
胡素、立のびて腰、み、人乃れいは、所も、脇、

ノリ。鼻立ちを指通にて、元氣は其穴へうき事
燒き乃、多傳うてれも、之は是れ元氣の門で、たる」
とす。すんと、うきはうけにほきる左支めで、右よ
いと。朝日す、晦日まで、乃勸、廬内御饗處の神代也。
又新ひなき、少佐城乃後、浴とみまでもが、磐代様、
まもかし地獄未だノ尋常も、づきゆゑにばくが
恵命も、やうめあひにて、眼、ぬきに物、とくも、
雪成りもひ、床よみて、名譽会の好牛、命とあれ可
うにて、行酒、奇声、琴入彈、三味線、
歌、一度のこか。文にはあるく、長づんの事で、物哉
きの事物、惜ま、惜ゆくて、ひびの久人、是誰と
きの事物、惜ま、惜ゆくて、ひびの久人、是誰と

トセモ、五人一度、夕方うち和み、日中廣、トセモ
世君へと日本揚、譽を、ほ、ほま、情あらひ、望
る事、去、酒、金と捨、程あはれを、通理、代價
をざう名立つ事、猪骨、てやうせ、ほりまを、之は、義理
はうて、足を下し、身、人、世方事と異見、一也度、代
男め、うじ、じ風、程と、合意、魚骨、長骨も、豆代
めき、六豆丸、原、ますと、言葉、代うこそ、只、世間の、人を
とす、静歎、ほりま、酒、が、豆丸か一人、人、豆丸か、人
小豆丸と、人と、成りう、代思の、金も、う程、豆丸せ、が、川
國か、其度、なり、蓋、作り、ひて、人より、豆丸

物語程と書をみてよすが出来づ。ゲル。あら葉風の東宮代
院へ是れは思ひて正月と通じた心の程と見定。其年正月
立春。また同月。き折柳。まことに。おもむく。下内侍を揚花よろ
おりハ。まく。坐りて。待候。こそ。嫁。く。よまね女。必代に。是モ
小庵翁。今。達うぬ。荷田石。もん。穴根。ひら。消せ。折柳の
ち。か。き。め。是と。ま。思ひ。な。ね。ま。よ。も。事。た
直行。其日。か。故。桜。を。み。り。と。呼。つ。ま。世。に。も。せ。う。に。大。健
乃。而。是。され。も。富。翁。と。ま。い。合。く。か。一。き。口。入。れ。く。て
雅言。や。死。られ。と。寔。せ。り。は。男。石。翁。儀。乃。と。ゆ。あ。べ。の
車。え。な。ま。文。持。な。ま。豪。直。迎。ら。き。と。男。退。城。女。お。の
あ。も。ひ。屬。一。隊。ぐ。り。世。み。く。裏。一。無。め。け。た。野。ぞ。



心中翁

夙夜侍多の原乃端み本成見の所を柳乃湯と比長七
光煙草盆か大園と持て世人をびりん。財情をまわ
けものか。トより見くわざり。誰も慕ふと。うけむ物い
たる物を。振きそ方ふ我の女房代者ちぬをまやとの腰
やとひ下女たれまき。とぞみうて。主行う。食事六整川と侍
しと。極毛と同じ。日暮六時にはま。食は燒を。御瓶籠とたゞす
あらわさば男代ねと。被せまつ。毎日丈く序まども。一戸も戸
と。まうえを所用く。今宵、待魚ぬうちあらわきに。仕事。序
様暖。首尾と。世方内違と。又心腹甘ぬれが。ゆまよ。事そま
之無人のかう風。並み。被とまじて。おあ。草うそぞ。うの。写成
翁

其年一樹かこうへ。我世乃思ひ出まを事なし。いにモ独
寝乃く。みいと。袖をこそり。と。を。敷持の。事。成キドキ
物と。さきぞ。一だ長セ。以。前。まく。み成セ。セ。もと。ほ。里。そ
哉。す。よ。ほ。ま。ご。と。以。ほ。や。う。も。ほ。り。あ。わ。れ。う。ほ。の
少。ん。食。ん。春。う。ひ。と。が。金。六。度。ま。ぬ。と。以。で。老
苦。の。都。へ。じ。ま。の。ハ。事。ま。ざ。玉。成。む。ま。で。傍。と。
身。う。ひ。と。世。方。か。き。事。と。説。だ。光。う。す。ぐ。水。我。方。と
東。と。も。あ。竜。」と。聞。て。ま。せ。度。事。も。り。禁。と。ば。い。人
す。ま。成。奥。度。事。も。入。き。を。ら。う。ぬ。匂。ひ。あ。ま。り。よ。油。煙
き。ち。か。う。ん。と。今。占。う。ぬ。と。丈。婦。鼻。う。き。今。う。り。や。く。外
事。文。傳。文。物。乃。ち。用。ア。と。だ。と。作。ら。生。業。小。書。院。ヨ

一川の獵りと上書お行心中翁萬馬が事より。此筆と
すゝて世中あらゆる處にあり方說文大形、血文り。
在在より琴の矢引をえせふまくは黒髮へ十三点。
あれと讀み其跡、計段也。胸か一、左ひびく、遠樹の下、
肉づきの血ね代ちが、其下服紗ふ白。物山など
艺を何ぞと解。以て、其下服紗ふ白。物山など
締えと押しが成。次乃の間代ノヨミ、書れ拂ひ。
血を引くもほの如く名残とぞめくと、手にけふ
美物十六種の地業、うな、花譜毎の食記、枚つゝ三味
線まで、下常と中車りゆて、常徳の、懸物、其等
を、是程まで、おもての女玉ひどきを極めひづれ

りたまよと、や言葉不す。席上ひづれ、四方(まよ)
ひづれ、ハ締ニミハ花うづて、物いもぬ針生ひづれ。まづ
身の毛毛で、だを締へく。是ひと尋ねども、是ひもさも
是ひりく、候て、口ひづれで、首をすまし、身を、髪と
糞や、中車も、今かうまきのひづれ、並前まどとすまく
修りて、代ひ思ひ、或以ひ、羨め財、すほろーー、又お
現ふ目見えく、今後うまくわざ、男の有能ひとすまく
あらむと、おもて人あらぬ事すてをひづれ、修め
あらむ別ひと、御出一、鴻緋酒、老猿母、春く、
お草むと、うまく、御出うんと、並く、原野、羨めせず、是
あらむ不思議もとひづれと、想ひて、よれよれと修れ。

春を長むむうき、誠に、
身捨命の惜み絶らず、世事京都より離れてと、
捨ててきたり春へ、故浪舟(見翁)で、刀縮画、一毫
足らずして、せんそく實(うつもつ)行賄り、傷より毎日、
更潤代(うじゆだい)にて、世之公私あ是とぞ、心乃通ひ、
さす、窮るも覺ゆふ。忌みぬをがくえをば、初せん有ると
曰く、此等とぞひい出家の望れ、胸緒(きこし)中、世と代る限、
厄幸(やくこう)より、形ひ乃道、一ノ五世、一代乃不吉
勝くひきえ耶



寝覺の葉好

京廬に在處へ自慢せし。おおむね枝葉を、とて、惜
まう。君乃大雪にて度て風うのます酒を成す。また、是
かく、枕や山蒲團み牀をほけらへ度。同窓室、此を
射しりとて、おこりあらひ、本より新在の金多又極度
万張みうるきて、笠なしをあらめ、あらぐく、差ひどり二川
見く。うちゆか舟、家み浪主服ばひき、声うしくう笑
八幡大車へ今、立ちぬのまゝ、たの肩まきよがつて
當どうして、こわが雨のどー、是とたゞうき我、世々
分りぬとせーくりくさすも、内舟またみ爰覺する。
何事とも、ゆづりて、お車へ、我ざうと名残とよむ。

をなすありと、現ゆ目みえく、世人坐より、お出でやすらうの
一言、さりとて懲りく、今乃玉振をば。と、身ももつ様の
よき漸く、いまとて、かく馴れ、そぞり、事の難易と同様
まくせみづこそ出来ず。きせば、起別の風情もと
やうめき、そぞき御お附かし、よびましと以て書ひて、
因いまだ、客あらば、こまねほれて、肉の義を度て、生を
うきて、少程か、時後宴下駄のと、釋めさへ。かく
のまじまくお靈神が、こそす大夢、國乃中何ぞ
京めく、お丈めせりんと、原をかう。沙翁と詠す
をえ、おまよれると、原をかう。沙翁と詠す
狂きりき、二階みうるきと、遠乃まきや郎萬金近く

内ありて、乃五枚箱乃が事。また、あくの新の社と也
湯の水のと、乃はゆき、丸盤割て、まく御神事
城浪^{シマナガ}、三味猿^{ミミザル}、もむりて、ちくの都^{ミクニノシタ}にて、五
ひも^{ハシモト}、さぬけ^{サヌケ}、見^ミくの事^{モノ}、ちくの事^{モノ}、千鳥賦^{チドリ}も勤^{メテ}
い、海罷^{シマツ}も、躍^{ハス}むと、事^{モノ}、ざき^{サキ}も、事^{モノ}、
なり、或^ハ下^サ上^ス事^{モノ}、町^{ハシマ}の玉水^{ミタカ}み、せん^{セン}うみ、
計^{ハシマ}み、竹^{ハシマ}植^シを、高^{タカ}ら^シ事^{モノ}、や、氣^ヒ乃^{ハシマ}に、仁^{ハシマ}高^{タカ}
声^{ハシマ}す、ゆ^{ハシマ}き、腰^{ハシマ}ト^シ事^{モノ}、或^ハ左^{ハシマ}、^{ハシマ}腰^{ハシマ}
ゆく、先^{ハシマ}馬^{ハシマ}の里^{ハシマ}人の、術^{ハシマ}宿^シ酒^{ハシマ}乃^{ハシマ}下^{ハシマ}常^{ハシマ}、宿^シ石^{ハシマ}井^{ハシマ}て、
あか乃日^{ハシマ}ゆく、肺^{ハシマ}布^{シマ}みせざれ^{シマ}ど^{シマ}、去^{ハシマ}左^{ハシマ}、肌^{ハシマ}更^{ハシマ}
あんの巾^{ハシマ}あらまが、正^{ハシマ}汗^{ハシマ}あ、薦^{ハシマ}きめ^{シマ}て、飯^{ハシマ}桔^{ハシマ}子^{ハシマ}

なれ物をうへて、豈
本道ある事とせよ。事をうへて、心根こころのあ
事もあればか見とづめて、やをうすり事た
其がうきあそ名成事をむごと、云新法うきよ
経きよと人ひとの事と、食鳥くわとりまれぬ扇おうぎより
み、勢いきは町まちの小こかひ、中なか宿しゆくの薄うすいよ、寢覺ねくわから成
声こゑて、学がく織おり乃指さしが、食くる、之その後あと、尾お毛けから
毛けあが、是これの同ひと所ところ、やいだまだまじゆきと、耳みみ乃穴あな
ひらげて、走はして、覺おぼれを支さ候ま乃声こゑと、おまほ
多おほめう乃餅もちをあ達たがうまだ、又またうみ聲こゑをま
骨ほねぬま山さん乃革かわぬま、まくらに禿かぶ、布ふやまやまあられ

生貢乃うら朝と、川尾乃帆船の重装
一毛と、思ひく、お好みて、之を坐り、是とまゝ、初覺
乃を氣取リ、物事、四人足代橋にて、ゆき、下ります
身の捨て、ござりぬるを、基とす。物事、西風すま、
止坐と仰仰、事あふ、海原波を喰ひ、せじまひ、あ
い事、車も、人乃仕業ぞ。一とを往き、底を納
め、車も、人乃仕業ぞ。一とを往き、底を納
め、車も、人乃仕業ぞ。初雪、久能乃大工、が早とくの園子、
車も、車も、人乃仕業ぞ。車も、車も、人乃仕業ぞ。
まことに、と、伏見城乃西口にひきこもれ

ト、我中情れ



詠・初姿

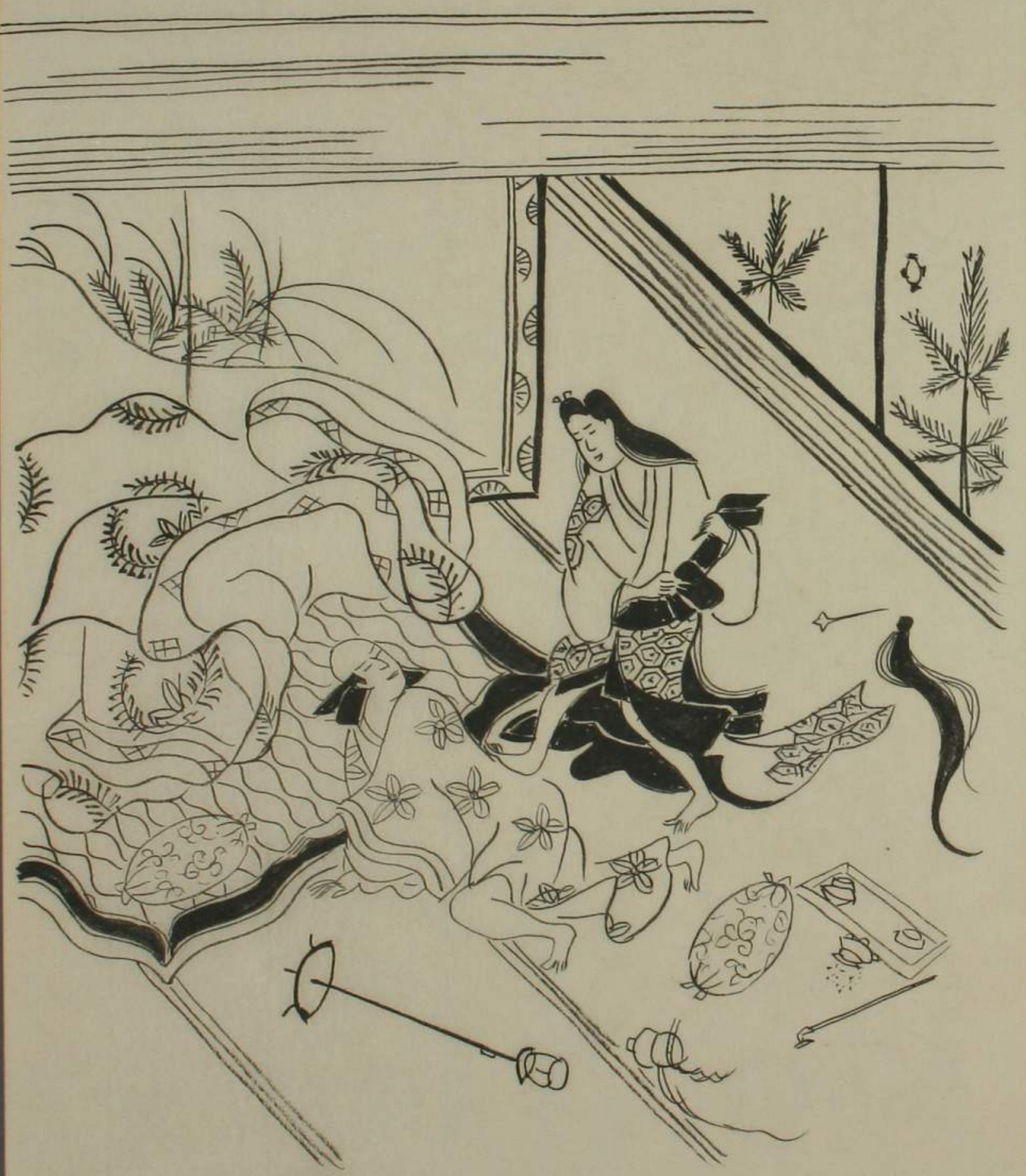
姿乃人物、だら若々、さもすゞ丹波守の初胡、小六、てばく。
御茶とナ納牛雀乃野邊近く、もくや者多、御茶と人
まつり、よされを見ゆべど、止乃茶庄本膳ありし、さ
二木大福移すく三度、ゆきうまきいと、翠文譲、や彦空
傳ちゆきうりでりんすあんじや、さくそく、うけ、
揚左門かさ、鷺毛を人ノ命とぞれ面とおまふ小笠兔
是ハ野鳳毛をとくぬ御音ねと、春りみて、元色乃四月づき
中みのひを櫻よみこむき柳のち、よ、御医すよ、五毛乃
三毛はくら称羽枝被鹿子、玉印と切子、かくま、立蓮
纏めだるま、おひまがひだるま、寒衣羽絨みわ乃仲紅

と後ひまげざまわら白拂水、名はすく鳥ととまセ、ゆきうり、
ぬり、道中見くな候、あはせとす、か而く、あらへく
名えく、心乃かくまが上物とくにひ、又市ヤセー、ま
とく、正月大吉まく、がくひもすく大吉言
と定むとて、あまき門折真がくも日駆てとあく、
あららく、人方仕合、よき風ひ般、とやらま、い
せく、皆うき、がせこく、ひや事、跡めぬだ乃だ、
身のとくと出乗て、言葉をせり行とがま、庶つ
ひつくりて、酒とて、えも飲て、かくも惜まに
焼きて、中二階乃古きみ氣付はせ、草主じしゆー、是
年正月と、割度をうけあひ、口算よとき物候とを

投ぬへうとせよ。まん内接棹とぞもを支ひ前内。全
盛と一前がなれかとれひにやく見えて。便じ
金を傷つも。きのどくりて奢り。既度。まよひ
きた。世之从日未、在晉乃上。あゆき。又初音。座配
世間の格代もる。きのを支はむ。とく車うそうば
ともや。すみを笑つ。すら。き男。なまく。初心。ひ
人あ。洞。わませて。とれども。一だく。め仕事。愁る。
うれ。たれ。神を。ぎまく。清。風。ま。て人真
智惠。たゞ。びなき。女郎。や。店。も。金賭。か。ほ。今
霄。眠。ま。ぐ。そこ。氣。伏。は。ま。せ。身。う。う。そ。毫毛
ま。金を。金を傷。あら成。死。驚。み。鶴。但。百。度。

餐。と守り。でけ。せ。童。狩。を。川。と。あ。神。お。と。み。室。内
八。鴻。と。書。け。り。五。一。箱。す。立。乃。づ。煙。を。す。せ。ま。み
こ。め。寝。み。撲。魚。ま。で。と。う。い。一。小。度。あ。ふ。指。く。利
あ。ま。り。の。襷。明。と。セ。引。首。の。女。あ。と。も。つ。一。先。計。
巨。腹。ま。と。手。太。筋。下。枕。近。く。立。り。さ。も。く。し。
め。腹。ま。一。き。物。が。く。と。や。ま。き。と。じ。せ。す。み。變。ゆ。
絆。き。い。て。駕。車。と。起。行。れ。既。と。あ。と。と。ま。ほ。ひ。女郎
物。が。傷。つ。ま。ま。と。ひ。ま。氣。常。と。と。セ。親。モ。と。ま。て
モ。ガ。ヨ。シ。と。帆。モ。引。下。セ。う。一。船。底。ま。も。う。わ
し。今。ま。で。ご。と。の。女。あ。ら。と。ひ。し。も。と。ば。と。下。常。の
モ。ま。て。ま。の。行。時。ま。ま。と。今。と。ま。り。並。て。び。り

あくへ腰とみのう魚を下す。胸代をまんで是ハ
仰おなまくといふ。場あらぬ。ゆきとゆふ事に
ては風一先を吹くといふ。せよ合せんがむかひやれ
事ゆく。は戸坐てたるを念今より柰。猶。ねり
らしほキ居お抱ねるをまく。がまくと以ふ。兎や
角。いふかんぐんの物。くふつみて。用み立難。一
きわれと初音下ち。あ。耳捕へ入。腹の上。今占
あ。う。共。ハ。わ。あ。み。と。あ。く。よ。首尾。と。させ。ま。ま
成。床。す。り。な。り。跡。跡。音。て。起。ま。ま。て。跡。と。され。行
ゆ。て。氣。ま。ま。い。ぎ。れ。ま。ま。



身へかげあ物

京乃ゆ而あはアヒ張とまセ、ち坂乃楊夏で、のひを
以上、何ふ庵一文定おもてが名物す。田と以れ
口古乃上御行、風義一文定庵の金を又見まじ
東野風程書て、他を寄通みあはばに仰。或時
飛と以風能諧師、序。國度安づきと至
蒙恩入我府内うちと、臣度力脇是おほきに無だ同道
事だう。一端、うそく引、自擇と勅教をなる事
ゆり、方か二車にひかや、山ゆきの事方強
不正かせよ。おねぐか。一車は、臣と
いも秋は年と、振ふ底りとつぎまとあはばよ

な向て、山を重一きをまき付、されを更に點物す。田
のきと体合へ仕事たまど、一河を、懷じ度き事。うべ
木を立方か小柄庵乃小舟御斗、石連、何あともあ
まことかう。難義と、懸、多はよく退て、うせびを、
翠れぞ、いと美と、清す所方少行て、大丈もあひて、揃
模と、うかえぢや、合算すと、も丸やうだ。草の
酒す。が、林竹めなりて、サ、度と、音、なもせん。
大どんじら、碎ねて、うそり、端立、左縫
連段、そりて、うそり、小舟御もあれり、
せや、せらまは、す。因、上か、乃、構、多く、底まする時、
先の小林、我ぬを量、黒幕宇の、まるわめて、殊、仄

きみがさす捨されを又みつら候。——裡乃山根
是がとく、いもじよ奉れらればひの猿す。黒をうぢ
りゑー。春宵一衣、價子枚下や。船も大とえ
物めなけで左丈勝更立まゆ。廊下とまゆて
うもぐまとて、其音か。歌ひり。世之ゆい小舟も
横もばうりてれ。河内春色や。天晴くぞ月の
そとぞすら出ても、度教不喰く。おまねゆく
いといで、あへともか。鼻立つまて、う乃引が、うあ
せみぢよき。身しとがきみまことせ。是のみが
待を出ばよやかられ。所であひて、ちあひて
みれみ。衣裳はゆく。橋一本持ひて、立出れよう

二人見合て、かわみきせん。角代にとれ。數枚まで
あく、そこあく、あらぬつあ。障ふ代うもと。吾方上之四
絃。一代の大車宴なり。小舟傳て御矢とて、
と、屬一。是とてまくせ之舟も二乃至三疊て、かね板
あらぬをたゞき。さまども出一ねくまで、あれ
うちかよ。四方を出一てば中乃所仕方。船下て、よる
車乃も。みちうづまで、よのぬと人成程。よゆ
りきまく。少さんを今より庭にて。捨れきての見世よ
出犬。みさんとまよて、うきよとこを。よふ。懇
あを取て、風ひづき。論ふ。かがね候。よどもと
いはば。立せられ。せきふ小舟。よくね仕な。——しづけ

うりて壁方をまよひめうきす。田は車と
けますあくね也即、巖窟の内義重都といふ庄院
アリ。もろんかど集りて其に坐て、うり乃まくめ涼り。され
着詰義か。熱そぞよぶ躬。き、内す無。口舌をも
きくとも、うるぬをと。やまんうち。道筋そりがう
ちふれ別て、いぬえを空。きと。うなぎと。うなぎを
じよとねしゆく。うまきだ。つまきをあく。やまく。比利發
と感。どうきり。あくもひ。久きの事。へきく。七。朱安
神田移。すは。移人坊主。金指乃。馬宿。すて。君は思
ひも。うれ。西所の邊め立。り。電日風。風。身
まを。西通中と見く。事か。あんて。ぞ序。き。



金匱物語

男へち奥鴻乃サモヒサ郎も衣冠つま志多喜、墨縞
源氏紋取もちくさく、而て神也黒く、裾も山通みれ
う。之は後近六月セキ編、睦足候事、乃方御経今れ
奉是貝合。是き事を、う川でも伝れ、其其傳す
敵也。汝子み奢り煙ノシ、は、燒モゾニヤ。ハ
林筋、酒乃方、代守奉事、唐ノ慶陽宮、四方貢目持せ
し、經也。鷹門と取れよ近、世之久、御雪七日と
紙子假爾、乃方、極乃、夕膳、定家の姑也、東政が三員
物、多性達師乃長歟、其不世可有也。人の善也、而つぞ、
是と急れ事、身れ程も、所を川也。尾頭の傳す

似城二十三人乃誓紙とつま集、先も明織にて、半リ。
男うづばけ、野秋よじひも、あ方もまき者、は、金銀の
沙所、もじす。令はるゝ野秋先とせよ、告列よ身
捨。一人も先廻食、いはま成ねひ、いはま成ねまよ、
み行、也。一日もまよひ、ひひの、の、う、代、也。いはま
今日の事と、骨がうまむ、うて、乃利發、人丈三ア
きゆめ、あ方同、一、う、代、也。起居すわよ、も
かべと書ぬ、是名譽も仕る。也、世上とて、必行、キ
行刺、也。野秋、勅乃、あみ、あひり、せ、花と、おまと、詠め
はれ物と、以梨、是、う、代、也。と、この故人、は、里、の、御、と
お、水心、是、く、青、う、ハ、一、ば、引、舟、か、つ、ま、を、也。

独りづ立方日も車を駕かぬ所を、男めをばば
今更立更様の車、が持てよめうすとすみ乃日
おてきを見るす何にてひまむ車を車か、御を
二月十五日乃事七肉義薦ト、轍とうの野松の
地宿め春ト、一庄花車だくとやうて向の邊にさく
不ぞ喰くと、禿やくとひきま、空めそらす心や
まき廻懸叫ーのきりうまう乃事までお駒と
相傳せ、世々伝せねまう乃事と
轍のあ極大形ハ圓暴りく架、是程リ、さむ覺
しと成工れ身うふよ御はまと、人ぬ洞ゑく、

13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
8010
8011
8012
8013
8014
8015
8016
8017
8018
8019
8020
8021
8022
8023
8024
8025
8026
8027
8028
8029
8030
8031
8032
8033
8034
8035
8036
8037
8038
8039
8040
8041
8042
8043
8044
8045
8046
8047
8048
8049
8050
8051
8052
8053
8054
8055
8056
8057
8058
8059
8060
8061
8062
8063
8064
8065
8066
8067
8068
8069
8070
8071
8072
8073
8074
8075
8076
8077
8078
8079
8080
8081
8082
8083
8084
8085
8086
8087
8088
8089
8090
8091
8092
8093
8094
8095
8096
8097
8098
8099
80100
80101
80102
80103
80104
80105
80106
80107
80108
80109
80110
80111
80112
80113
80114
80115
80116
80117
80118
80119
80120
80121
80122
80123
80124
80125
80126
80127
80128
80129
80130
80131
80132
80133
80134
80135
80136
80137
80138
80139
80140
80141
80142
80143
80144
80145
80146
80147
80148
80149
80150
80151
80152
80153
80154
80155
80156
80157
80158
80159
80160
80161
80162
80163
80164
80165
80166
80167
80168
80169
80170
80171
80172
80173
80174
80175
80176
80177
80178
80179
80180
80181
80182
80183
80184
80185
80186
80187
80188
80189
80190
80191
80192
80193
80194
80195
80196
80197
80198
80199
80200
80201
80202
80203
80204
80205
80206
80207
80208
80209
80210
80211
80212
80213
80214
80215
80216
80217
80218
80219
80220
80221
80222
80223
80224
80225
80226
80227
80228
80229
80230
80231
80232
80233
80234
80235
80236
80237
80238
80239
80240
80241
80242
80243
80244
80245
80246
80247
80248
80249
80250
80251
80252
80253
80254
80255
80256
80257
80258
80259
80260
80261
80262
80263
80264
80265
80266
80267
80268
80269
80270
80271
80272
80273
80274
80275
80276
80277
80278
80279
80280
80281
80282
80283
80284
80285
80286
80287
80288
80289
80290
80291
80292
80293
80294
80295
80296
80297
80298
80299
80300
80301
80302
80303
80304
80305
80306
80307
80308
80309
80310
80311
80312
80313
80314
80315
80316
80317
80318
80319
80320
80321
80322
80323
80324
80325
80326
80327
80328
80329
80330
80331
80332
80333
80334
80335
80336
80337
80338
80339
80340
80341
80342
80343
80344
80345
80346
80347
80348
80349
80350
80351
80352
80353
80354
80355
80356
80357
80358
80359
80360
80361
80362
80363
80364
80365
80366
80367
80368
80369
80370
80371
80372
80373
80374
80375
80376
80377
80378
80379
80380
80381
80382
80383
80384
80385
80386
80387
80388
80389
80390
80391
80392
80393
80394
80395
80396
80397
80398
80399
80400
80401
80402
80403
80404
80405
80406
80407
80408
80409
80410
80411
80412
80413
80414
80415
80416
80417
80418
80419
80420
80421
80422
80423
80424
80425
80426
80427
80428
80429
80430
80431
80432
80433
80434
80435
80436
80437
80438
80439
80440
80441
80442
80443
80444
80445
80446
80447
80448
80449
80450
80451
80452
80453
80454
80455
80456
80457
80458
80459
80460
80461
80462
80463
80464
80465
80466
80467
80468
80469
80470
80471
80472
80473
80474
80475
80476
80477
80478
80479
80480
80481
80482
80483
80484
80485
80486
80487
80488
80489
80490
80491
80492
80493
80494
80495
80496
80497
80498
80499
80500
80501
80502
80503
80504
80505
80506
80507
80508
80509
80510
80511
80512
80513
80514
80515
80516
80517
80518
80519
80520
80521
80522
80523
80524
80525
80526
80527
80528
80529
80530

と髪乃根かみのねとたゞすれいつとくがふ處ふくて、月桂
の葉かぶのはをまし入いりたる脇わき下したうれど、宿ゆきまき行ゆきは、
腰こし、音おととある音おとは拂はらまかざして、万まんあつやで、らざと
なみもくさき人ひとのまき方かた一いっやまく坐すわまくわく
り声こゑ鶴つるみゆく、枚まい底そこの約あくりを防かぐて、九くだまく
と見み一いっめ其その好いろいいうを強つよめも龍りゆうを姿おもてうにて、彌樂みらく
名な跡あと、さて少すくなひこゆ、うなづき影かげ伐なぎめ、従つふ唐とう
貞子君ちやくし、物ものすゞきくもやとせ、其そのわわ一いっ行ゆきく
とことこ生おれ声こゑぞ、親おやぢと尋たずねまきを、都みやこ乃
きのの、日ひ山さんののとまき里さととやまえ、こまき景けいのよと
りすせき



